

3. 消防防災航空体制の更なる安全対策

全体イメージ

3つの視点で見直し: 1. 対策充実 ⇒ 2. 見える化 ⇒ 3. 継続的な改善

1. 安全対策の充実

事故になり得る要因と安全対策

(1) ヒューマンファクター (組織も含む)

〔組織・体制面〕

- ① 安全運航に関する組織マネジメント強化
- ② 風通しの良い職場づくり (安全運航管理幹設置)
- ③ ダブルパイロット制の導入
- ④ 必ず2人以上による複数チェック体制

〔技術的側面〕

- ⑤ 運航可否判断、運航中止手順の明確化
- ⑥ 隊員の育成計画の作成、技量確認の実施
- ⑦ チーム力の強化に向けた研修の実施
- ⑧ シミュレーターを活用した緊急事態の対処

組織全体で安全管理
(PDCAサイクルで改善)

1人で判断させない
(複数の眼でチェック)

基準等の明確化
教育・訓練強化

(2) 物的不具合・機材未整備

- ⑨ 安全運航に係る機材整備の充実等
(機内カメラ等)

安全機材(設備)
の充実

(3) 体調不良、環境要因、共通・その他

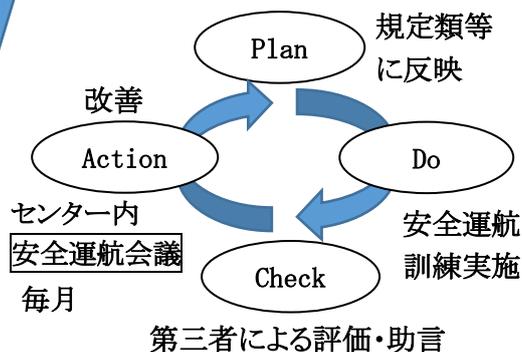
- ⑩ 健康ケア計画、定期的なチェック体制
- ⑪ 寮生活の改善 等

健康管理ケア等

2. 対策の見える化

上記の対策について
「長野県安全運航に関する規定類」
を整備し、内部で明確化
「第三者による評価・助言の仕組み」
を構築し、外部から透明化

3. 継続改善の仕組み



継続的な安全対策の改善へ

4. 検討結果を踏まえた県としての対応

【再開に向けた3つの基本的な考え】

- ① 何よりも「安全第一」を基本とする。
- ② 活動再開は、十分な訓練の実施など下記の手順を経て、安全運航が確認された後に再開する。
- ③ 活動内容も消火活動等からはじめ、救助活動などは消防防災航空体制の能力に応じて段階的に展開。

活動再開に向けた手順（イメージ）

